目次

I. **釜山ビエンナーレ**	釜山ビエンナーレとは	2
	ビジョン	2
	過去のビエンナーレ	2
II. **釜山ビエンナーレ 2014**	目的	3
	展望	3
	概要	3
	構成	3
III. 展示のテーマ	テーマ	4
IV. 本展示	コンセプト	5
	7つのセクション	5
	アーティストと作品選定について	5
	代表アーティスト・作品	6-8
V. 特別展示	「ビエンナーレ・アーカイブ」展	9
	「アジアン・キュレトリアル」展	9
VI. 関連プログラム	アカデミック・プログラム	10
	国際交流プログラム	10
	パブリック・プログラム	10
VII. 参考資料		
１）キュレーター・プロフィール		11
２） 来場者向け情報	スケジュール	13
	入場料	13
３） 釜山ビエンナーレ組織委員会		14

お問い合わせ

I. 釜山ビエンナーレ

□ 釜山ビエンナーレについて

釜山ビエンナーレは2年に1回開催している韓国の代表的な芸術祭です。2000年に釜山国際現代アートフェスティバルとして初開催されて以来、総勢1700人のアーティストが出展し、合計700万人の来場者が訪れています。

釜山ビエンナーレは、釜山で開催されてきた 3 つの展覧会（釜山青年ビエンナーレ、Sea Art Festival、釜山国際野外彫刻展）が統合した芸術祭で、国内で唯一の自発的な芸術祭です。

釜山ビエンナーレは、韓国の美術文化交流事業を推進し、地域美術の国際的地位の向上と現代美術の裾野の拡大を目的としています。

□ 目的

- アジアにおける芸術の拠点都市として、釜山という都市の力、現代美術を牽引してきた釜山美術の歴史を基に、世界のアート・ワールドと交流するプラットフォームとなることを目指します。
- 現代美術が持つ不明瞭さと難解さを克服し、釜山市民だけでなく、世界中の人々が共に鑑賞し対話する、開かれたビエンナーレを目指します。
- 釜山文化のマーケティングの重要な役割を担い、釜山市民はもちろん、韓国国民に愛されるビエンナーレとして世界にアピールします。

□ 過去の釜山ビエンナーレ

タイトル	展示テーマ	出展国／出品人数／作品点数	入場者数
2000PICAF	波(Pa)-Together in Life	37カ国 344人 750点	607,337人 (有料入場者数 ：66,493人)
Busan Biennale 2002	Culture Meets Culture	40カ国 227人 133点	1,701,935 人 (有料入場者数: 100,595 人)
Busan Biennale 2004	Chasm, 隙	40カ国 203人 146点	1,324,085人 (有料入場者数: 107,785人)
Busan Biennale 2006	Everywhere	39カ国 314人 253点	1,419,789人 (有料入場者数: 121,906人)
Busan Biennale 2008	EXPENDITURE	39カ国 189人 916点	896,815人 (有料入場者数: 175,504人)
Busan Biennale 2010	Living in Evolution	23カ国 252人 338点	551,238人 (有料入場者数: 196,038人)
Busan Biennale 2012	Garden of Learning	22カ国 114人 404点	332,883人 (有料入場者数: 198,841人)

II. 釜山ビエンナーレ2014

□ 目的

- 釜山のユニークな都市的・地理的特性を生かしたビエンナーレを開催することで、韓国文化のブランド力を高め、国際文化芸術都市釜山の地位を向上します。
- 現代美術の新しく多様な芸術の形式を提示するとともに市民の生活に根付いた特徴のある展示を実現します。
- 地域住民、機関、文化芸術団体などと連携した多様なプログラムを準備し、地域文化の活性化を図り、開かれたコミュニケーションの場を提供します。
- アジアにおける各ビエンナーレ団体との積極的な交流を通じて、各都市との連携やネットワークの構築を図ります。

□ 展望

- 方向性と特性（青年性、大衆性、公共性）の明確化により、現代美術の社会全体への浸透の実現及び釜山ビエンナーレの長期発展を目指します。
- 幅広い層の参加を促すため、各層に特化したエデュケーション・プログラムを実施します。
- アジアにおける各ビエンナーレ団体とビジョンを共有し、連携プログラムを実施します。
- 国内外への広報を強化します。

□ 概要

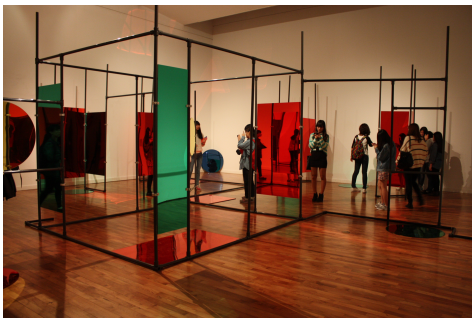
テーマ：Inhabiting the World
一般会期：2014年9月20日（土）～11月22日（土）（64日間）
会場：釜山市立美術館、釜山文化会館、KISWIRE Sooyoung Factoryなど
主催：釜山広域市、釜山ビエンナーレ組織委員会
後援：韓国文化体育観光部

□ 展覧会構成

本展示 ： 展示、エデュケーション・プログラム
特別展示 ： 「ビエンナーレ・アーカイブ」展、「アジアン・キュレトリアル」展

□ 関連プログラム

アカデミック・プログラム ： ワークショップ、パネル・ディスカッション、フォーラム
国際交流プログラム ： アジア・ビエンナーレ代表者ミーティング、アジア編集長ミーティング
パブリック・プログラム：釜山ビエンナーレ・アゴラプロジェクト、ビエンナーレ・ラウンジ



釜山ビエンナーレ2012 会場及び展示風景

III. 展示のテーマ

Inhabiting the World

芸術＝世界にinhabit（住む・存在）するための倫理的・美的効率性

今日、私たちは非常に大きな変化に直面しており、経済的、生態的、地政学的、実存的な危機が常態化した状況に置かれています。過去20年あまり、異なる分野の多くの理論家と専門家がこの状況を理解するために多様な分析と仮説を提示してきました。彼らの多くは社会学者、技術専門家、企画専門家、経済学者で、まれにアーティストも含まれます。しかしながら、シンクタンクやメディアが実際にアーティストに助言を求めたことはほとんどありませんでした。

アーティストは確かに直接的な答えや問題に対する解決策を提示したりはしませんが、より奥深く、定義しにくい概念を知覚化する「Visions of the World」を持っていると言えるでしょう。彼らが提示するものは、すぐに実践に移すことはできませんが、長期的にはより効果的で持続可能なものであると思います。彼らの返答は、哲学的な孤独の中にいる個人、自然とその保存されるべき資源、あるいは多様な共同体を横断する社会的状況と関係してくるかもしれません。それらは、詩的または抽象的な考えを生み、その効力を発揮します。神経生物学や天文学などの科学の分野とも連動していくことでしょう。

「Inhabiting the World」[1]とは能動的姿勢や活力の象徴であり、世界を変化させるために世界に働きかけていこうという意思です。そして、まさにこれらのエネルギーと流動性が釜山という都市を特徴づけています。

私はこの文を書きながら、一般的な世界、いわばグローバル化された世界を思い浮かべています。より具体的には、釜山という都市——不変の海に面した——そしてグローバル化の中で無限に膨張している21世紀の都市——そこでは最も現代的で革新的な技術と伝統的な要素が介在している——が目に浮かびます。このような状況は枚挙に暇がなく、地中海沿岸のマーグ財団美術館から近いマルセイユやニースのような都市も同じ様な状況にあります。

今日の不均衡の中で「次の段階」となる発展を追及する芸術的創造は、もはや既存の美学の追求ではなく、むしろ多様な提案によってより活動的に、生き生きとしたものとなることでしょう。今、芸術は単に修辞的かつ論争的なディスクールではなく、時間を超越する状況と時代に対して働きかける「ひとつの賭け」であることを忘れてはならないと思います。全ての芸術作品の目標は、世界に対してユニークな思想と形式を提供することです。このようなユニークな思想と形式は、時間を超えて人々の心の中に私たちの文明の証拠として残ることでしょう。「戦争や社会的かつ学問的な動揺を経て(エメ・マーグ[2])」芸術が考えうる限り最も純粋な精神性とメッセージを残すことを私は願います。

釜山ビエンナーレの意図は、このような方向性を持ち、それを体現しながら、釜山ビエンナーレが来たるべき時代を捉えるための場となることを立証するような作品を展示することです。これは今日の、調和と一貫性を保ちにくい物質主義時代においても、精神が変わらず存在し続けることを見せることでもあります。アーティストが活動し、芸術が存在することで、精神は相変わらず私たちの中に息づいています。ゆえに、視覚芸術は、建築やアイデンティティの問題に対峙することになります。人間と動物、生態学、物体、産業、科学、宇宙との関係に対する問題に——。

今回の展示では、若いアーティストの展示はもちろんのこと、既にこのような領域の探求として知られている重要な作品と活動をクローズアップします。芸術の問題は世代の問題ではなく、適合性と創作力に関する問題と考えています。

今、鍵となるのは、今日の状況に対するアーティストの答えがあらゆる形式を取ることができるということ、即ち、最も抽象的な絵画から、最も幻想的なビデオまで、また、最も驚くべきデジタル作業から、最も現実的な設置作業に至るまで、芸術が持つあらゆる豊かさを発揮することができることへの理解を深めることです。世界は数とスーパーポジション[3]、点から点への移動やずれなどで形成されています。今日の芸術は、これらの多様性とそれらひとつひとつの世界の驚くべき集合体——まるで星座のような——であり、さらに探求されるべきものであると言えるでしょう。

——

1. inhabit
   a. 〈人動物が〉〈ある場所に〉住む，居住［生息］する.
   b. …に在存［内在］する，宿る.

2. Aimé Maeght（エメ・マーグ）：マーグ財団の創設者

3. superpose
   a. …を（…の上に）置く，重ねる《on, upon ...》.
   b.《幾何学》〈図形などを〉重ね合せる；《物理学》…を重複発生［共存］させる.

IV. 本展示

□ コンセプト

- 芸術は世界に inhabit（住む・存在する）ための倫理的・美的効率性の問題と考えられます。
- 今日、私たちは非常に大きな変化に直面しており、経済的、生態的、地政学的、実存的危機が常態化した状況の中に置かれています。このような状況を理解する為に、社会学者、技術専門家、企画専門家、経済学者は多様な分析と仮説を展開しています。
- メディアやシンクタンクがアーティストに助言を求めることはあまり見られませんが、アーティストはより奥深く、定義されづらい概念を実践する「Visions of the World」を持っています。
- 「Inhabiting the World」とは、能動的姿勢と活力、また、世界に働きかけ世界を変える意志の象徴です。また、このようなエネルギーと流動性が釜山の特徴と言えます。
- 釜山ビエンナーレ2014は、今日の状況に対するアーティストの答えが、あらゆる形式をとることができ、芸術の豊かさを発揮することができることへの理解を深めることを目標とします。

□ ７つのセクション

１．Abstraction/Movement（抽象・運動）
視覚芸術は非常に広い空間を必要とします。「Abstraction/Movement」では私たちと空間との関係性を提示すします。

２．Cosmos（宇宙）
私たちは実存するものと同時に宇宙と対話することができる世界を追求しています。「Cosmos」では、人間と宇宙の関係を提示します。

３．Architectural Space（建築的空間）
「Architectural Space」では、人類と建築、建築的構造、家などの関係性を提示します。

４．Identity（アイデンティティ）
「Identity」は「誰がこの空間に、宇宙に、この建築に住んで（生きて）いるのか」と問います。人類と「Inhabiting the World」の関係性を提示します。

５．Animality（動物性）
人間は動物と交流してきました。「Animality」では、動物をテーマに制作するアーティストの作品を通して人間と動物との関係について考察します。

６．History/Society（歴史・社会）
この地球上には戦争中の地域が多く存在します。「History/Society」では、歴史の中で扱われてきた紛争について考察します。

７．Nature/Paysage（自然・風景）
釜山はその港湾都市という性格から、海の持つダイナミズムや拡張性といった特徴を持ちます。
「Nature/Paysage」では、人間と自然の共鳴という視点から、不変性、永遠性などに関連する自然というテーマを扱います。

□ アーティストと作品選定について

- 釜山ビエンナーレ 2014 は若手アーティストから著名アーティストまでの作品やその制作プロセスに注目し、同時代性や次世代性を持つ作品をクローズアップします。
- 抽象絵画から、幻想的なビデオ・アート、デジタル・アート、平面作品からビデオ、デジタルワーク、インスタレーションに至るまで、芸術形式におけるすべての分野を網羅します。

釜山ビエンナーレ2012展示風景

□　主なアーティストと作品

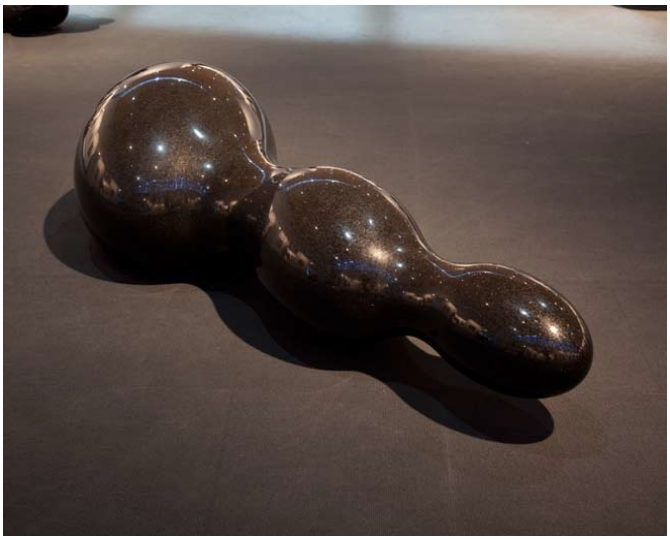
アーティスト１	Fabrice Hyber　　ファブリス・イベール		
<Pasteur' Spirit>, Installation, Institute Pasteur, Paris, France, 2010.			
国籍	フランス	拠点	フランス
学歴	パリ国立高等美術学校（ボザール）卒業		
展覧会歴	2014 年『Prohibits Children』Galerie Nathalie Obadia（パリ、フランス） 『Homeopathic Paintings』Galerie der Stadt Tuttlingen（トゥットリンゲン、ドイツ） 2013 年『Lyon Biennale』（リヨン、フランス） 『L'échappée belle』グラン・パレ（パリ、フランス） 『Raw Materials』バルチック現代美術センター（ニューキャッスル、イギリス） 2012 年『Matières premières』パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス） 『Essentiel』マーグ財団美術館（サン・ポール・ド・ヴァンス、フランス） 2011 年『PARIS - DELHI – BOMBAY』ポンピドゥー・センター（パリ、フランス） 2010 年『Immortalité』（モスクワ、ニジニ・ノヴゴロド、クラスノヤルスク、ロシア） 2005 年『第三回韓国国際陶芸ビエンナーレ』（利川、韓国）など		
作品解説	ファブリス・イベールは 25 年以上にわたり国際的なアートシーンで活躍し、1997 年のベニス・ビエンナーレで金獅子賞を受賞した。ドローイングを全ての作品の基礎としながら、その表現形式は絵画から彫刻、インスタレーション、パフォーマンス、ビデオ・アートまでと幅広い。1990 年より、Prototypes of Functioning Objects（POF）と呼ばれるシリーズを制作している。これらのインスタレーションの風刺的でユーモラスな表現は、非実用的なオブジェクトを作り、変化させることで、アートの文脈に存在する非実用性という機能主義への皮肉を含んでいる。		

アーティスト２	塩田千春

<Accumulation-Searching for Destintation> Installation, Vintage suitcases, red rope, Dimensions variables, 2014.

国籍	日本	拠点	ドイツ
学歴	2003年　ベルリン芸術大学（ドイツ）卒業 1999年　ブラウンシュバイク美術大学（ドイツ）卒業 1996年　京都精華大学卒業		
展覧会	2013年　『塩田千春展ーありがとうの手紙』高知県立美術館 『Collection + Chiharu Shiota』Sherman Contemporary Art Foundation（シドニー・オーストラリア） 『The Pulse of Time』Future Perfect（シンガポール） 2012 年『Other Side』Haunch of Venison（ニューヨーク、アメリカ合衆国） 『The best of Times, the Worst of Times』the First Kiev International Biennale of Contemporary Art（キエフ、ウクライナ） 2010 年　『Connectedness to Life, Beyond Mediations』Mediations Biennale（ポズナン、ポーランド） 2009 年　『the 3rd Moscow Biennale of Contemporary Art』（モスクワ、ロシア） 2008 年　『Waiting』Goff + Rosenthal（ニューヨーク、アメリカ合衆国）		
作品解説	展覧会の空間を無作為に覆う網目のようにもつれた黒い糸は、塩田千春の作品を特徴づける要素である。フロアを、天井を、壁を覆うきつく編まれた糸は、テリトリーを印すものに似ていると塩田は言う。それらはアーティスト独自の自己決定的な言語であり、空間を包容し、再定義する。物体を守るかのように囲む黒い糸は観る者に死を想起させる。塩田は、ピアノ、病院のベッド、古いミシン、廃れた玩具など、一度は誰かの生活の中で機能していた物体を集め、それらを独自の方法で「繭」化する。塩田の個人的な経験や記憶は、それらの物体をいかに扱うかといったことにおいて、決定的なメカニズムとなっている。		

アーティスト 3	郡田政之



1) <Untitled>, black granite, 50 x 198 x 62 cm, 2013.
2) <Cell>, black marble, 52 x 52 x 53 cm, 2013. <Cell>, black marble 52 x 52 x 52 cm, 2011.
© Courtesy Galerie Scheffel, Bad Homburg / Germany & Artist

国籍	日本	**拠点**	中国
学歴	武蔵野美術大学卒業		
展覧会	2012年 『Scale: A Gathering of Sculptors』 Blue Star Contemporary Art Museum（テキサス、アメリカ合衆国） 2010年 『Art Karlsruhe 2010』（カールスルーエ、ドイツ） 2009-2013年 『Blickachsen 7, 8, 9 』（ドイツ） 2008年 『Scultura Internazionale ad Aglie』（ピエモンテ、イタリア）		
作品解説	郡田政之は、花崗岩を用いて端正な作品を作り上げる。驚くべき程の滑らかさと美しい曲線を持ったその彫刻は、アメーバや分子や、また、日本アニメーションの美学を思い起こさせる。古代の石と日本の美学を融合させることで、郡田の彫刻は、休息、出会い、語らいの場を提供する。		

V. 特別展示

□「ビエンナーレ・アーカイブ」展

韓国において過去 50 年にわたり、いかに現代美術がビエンナーレという国際展のシステムと共に発展したかを再考し、ビエンナーレの歴史的重要性と現代美術の価値を再確認する展覧会です。

タイトル：Voyage to Biennale—世界のビエンナーレにおける韓国現代美術の50年
会期 ：2014年9月20日～11月22日
会場：釜山文化会館 大・中展示室
出品アーティスト：約50名
企画：李健洙（Lee Kenshu）元「Wolganmisool」編集長

大展示室：時系列に全作品を配置し、その中で特に注目された作品をピックアップします 。
中展示場：観客の理解を助けるための付属資料、ビエンナーレ以外の国際展参加作品も展示します。

□「アジアン・キュレトリアル」展

アジア４都市の若手キュレーターが共同で展示を企画し、釜山ビエンナーレに今一度若き活力を与えます。釜山ビエンナーレの国際交流事業として2001年より行われてきたアジア・ビエンナーレ・フォーラムの成果発表の場でもあります。

テーマ：Unsettled
会期／会場 ：2014年9月20日～11月22日／KISWIRE Sooyoung Factory
キュレーター：徐準皓[Seo, Juno]（韓国）、花田伸一（日本）、柳淳风[Liu, Chunfeng]（中国）、ジョリーン・ロウ[Joleen Loh]（シンガポール）
出展アーティスト：50名前後（各キュレーターが10名を選定）

上段：「アジアン・キュラトリアル」キュレーター・ミーティング
下段：キュレーター全体ミーティング風景

VI. 関連プログラム

□ アカデミック・プログラム

- ワークショップ
  講座、フィールド・トリップ、公聴会を開催
  会期／会場: 2014年4月～11月, 釜山市立美術館・オーディトリウムなど
  出演者：10人ほどのキュレーターなどの専門家、過去のアーティスティック・ディレクターなど

- パネル・ディスカッション
  釜山ビエンナーレ2014のテーマやコンセプトについてのディスカーシブ・プラットフォーム（議論のためのプラットフォーム）
  日時／会場：2014年9月20日10:00～／釜山市立美術館・オーディトリウム
  登壇者：アーティスティック・ディレクター、国内外の批評家、過去のキュレーターなど10人程度

- フォーラム ※AICA (International Association of Art Critic)との協働プログラム
  釜山ビエンナーレの課題や、ビエンナーレに対する評価、近年の現代アートの潮流などを議論する
  日時／会場：2014年10月／釜山市立美術館・オーディトリウム
  登壇者 ： アーティスティック・ディレクター、国内外の批評家など11人程度を予定

□ 国際交流プログラム

- アジア・ビエンナーレ代表者ミーティング
  アジア地域のビエンナーレ間の共同プロジェクトのための意見、ビジョン交換会
  日時／会場：2014年9月21日／釜山市立美術館・オーディトリウム
  参加者：5人のアジア地域のビエンナーレの代表者 （釜山、シンガポール、横浜、上海、シドニー）

- アジア編集長ミーティング
  アジアの現代美術の主な変化や今後の展開について
  日時：2014年10月
  会場：釜山市立美術館・オーディトリウム
  参加者：10人程度のアジアの美術専門誌編集長

□ パブリック・プログラム

- 釜山ビエンナーレ・アゴラプロジェクト
  釜山ビエンナーレへの興味喚起や、継続的な参加や地域との調和を図り、小規模のフォーラムや、アーティスト・ミーティングなどを開催
  会期／会場：2014年6月～11月 釜山市内

- ビエンナーレ・ラウンジ
  アートワークショップ、写真撮影ゾーン、ストリート・パフォーマンス、ふれあい広場など、各会場をつなぐ参加型プログラム
  会期／会場：2014年9月20日～11月22日（週末のみ開催）釜山ビエンナーレ会場など

釜山ビエンナーレ2012関連プログラム開催風景

VII. 参考資料
1) キュレーター・プロフィール

アーティスティック・ディレクター	オリヴィエ・キャプラン（Olivier Kaeppelin）国籍フランス　1949 年生

マーグ財団美術館（サン・ポール・ド・ヴァンス、フランス）館長

学歴
パリ 10 大学社会学博士課程修了
パリソルボンヌ大学社会学修士課程修了
パリソルボンヌ大学現代文学学部卒業

職歴
2010 – 2011 年 パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス）館長
2004 – 2010 年 フランス文化通信省・視覚芸術部門ディレクター
2002 – 2004 年 ラジオ・フランス・ネットワーク　文化プログラムコンサルタント
1999 – 2001 年 France-Culture 副ディレクター

キュレーション歴
2013 年　『Blickachsen 9』（ドイツ）
『Joan Miro: L'Arlequin artificier』Fonds Helene&Edouard Leclerc（ランデルノー、フランス）
『E-motion』マーグ財団美術館（サン・ポール・ド・ヴァンス、フランス）
2012 年　『Arcadia in Celle』マーグ財団美術館（サン・ポール・ド・ヴァンス、フランス）
2011 年　『Erik Dietman, Monomental』マーグ財団美術館（サン・ポール・ド・ヴァンス、フランス）
2010 年　企画：『Sophie Calle』、『Amos Gitai』パレ・ド・トーキョー（パリ、フランス）
2007 - 2011 年 企画構想：「Monuementa」グラン・パレ（パリ、フランス）

本展示キュレーター	金秀炫（Kim, Sou-Hyeun）国籍韓国　1960 年生まれ

学歴
パリ第 3 大学 シネマ&オーディオ・ビジュアル学科博士修了
パリ第 1 大学 人文科学大学西洋現代美術史博士学位取得
梨花女子大学美術大学卒業

職歴
2006 - 2010 年 駐フランス韓国文化院キュレーター
2003 年　ASEM-DUO Project 参加
パリ第 3 大学映画学科研究員及び講師
2001 - 2003 年 延世大学メディアアート研究所（韓国）専門研究員
国際シンポジウム参加多数(17 回)
美術批評家として美術専門誌に寄稿
梨花女子大学、延世大学にて美術史の講座を持つ

キュレーション歴
2010 年　『Néo-Graphie』Cité Internationale des Arts（パリ、フランス）
2009 年　『Vide&Plénitude』Espace Commines（フランス、パリ）
『Correspondances de l'âme』OECD 展示企画　（パリ、フランス）
フランス、アメリカ合衆国にてキュレーション多数（25 回）

「ビエンナーレ・アーカイブ」展キュレーター	李健洙（Lee, Kenshu）国籍韓国　1965 年生まれ

学歴
ソウル大学院美学科卒業
高麗大学露語露文学科卒業

職歴
1999-2013 年「Wolganmisool」編集長

キュレーション歴
2013 年　『Primavera』アムウェイ美術館（京畿道、韓国）
2012 年　『LIG アートスペース開館記念展-山水人』LIG 社屋（ソウル、韓国）
2009 年　『クリオ・コスメチックアート展-クレオパトラ』ガナアートセンター（ソウル、韓国）
2008 年　『韓国中堅作家 10 人展-月の庭園』COEX（ソウル、韓国）
2003 年　『東洋画パラディソ展』ポスコ美術館（ソウル、韓国）
2002 年　『韓国のマエストロ展』錦湖美術館（ソウル、韓国）

アジアン・キュレトリアル　共同キュレーター　[韓国]　**徐準皓（Seo, Juno）　1979 年生まれ**

学歴
2007 – 2009 年 韓国芸術総合学校　美術論修士課程修了
2001 – 2007 年 韓国芸術総合学校　美術論学士課程修了

キュレーション歴
2013 年『Common Sense of the East』 Gallery 175（ソウル、韓国）
『Site Explorers：韓国現代美術作家 3 人展』Gallery Ado（熊本、日本）
『Twilight-the Prospects of Asian Industry』Howl Space 他（台南、台湾）
『Touch: Korea Myanmar Collaborative Project』New Zero Art Spece（ヤンゴン、ミャンマー）
2011 年『Peace Like River』Space 99 他（ソウル、韓国）

アジアン・キュレトリアル　共同キュレーター　[日本]　**花田伸一　1972 年生まれ**

学歴
九州大学文学部（美学美術史）卒業

キュレーション歴
2014 年　『ちくごアートファーム計画』九州芸文館（福岡県筑後市）
2012 年　『街じゅうアート in 北九州 2012　ART FOR SHARE』（北九州市）
2010 年　『ながさきアートの苗プロジェクト 2010 in 伊王島』（長崎市）
2010 年–『大人の図工時間 the land school 2010-2015』槻田小学校（北九州市）
2008 年–『千草ホテル中庭プロジェクトーアート・ホスピタリティ』千草ホテル（北九州市）
2001 年　『6th 北九州ビエンナーレ～ことのはじまり』北九州市立美術館（北九州市）

アジアン・キュレトリアル　共同キュレーター　[中国]　**柳淳风（Liu, Chunfeng）　1981 年生まれ**

学歴
2007 年　中央美術学院（中国）アートマネジメント修士課程修了
2004 年　中央美術学院（中国）美術史学士課程修了

キュレーション歴
2013 年 『@What-New Contemporary Art of China』Arko Art Center（韓国、ソウル）
2010 年 『Fabrique en Chine』798 芸術区（北京、中国）
『Yang Na and Mu Lei New Work Show』Taipei MOCA（台北、台湾）
2008 年 『Facing Reality-Selection of Chinese Contemporary Art』中国美術館（北京、中国）
2007 年 『Floating: New Generation of Art in China』中国美術館（北京）と韓国国立現代美術館（ソウル）の共同キュレーションによる

アジアン・キュレトリアル　共同キュレーター　[シンガポール]　**ジョリーン・ロウ（Joleen Loh）　1988 年生まれ**

学歴
2014 年　ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（イギリス）美術史修士課程修了
2009-2011 年メルボルン大学（オーストラリア）　美術／アジア研究学士課程修了

キュレーション歴
2014 年　共同キュレーター『SOUND: Latitudes and Attitudes』Institute of Contemporary Arts Singapore（シンガポール）
コーディネーティング・キュレーター『Lost to the Future: Contemporary Art from Central Asia』Institute of Contemporary Arts Singapore（シンガポール）
共同キュレーター『Superposition(s)』Institute of Contemporary Arts Singapore（シンガポール）
2013 年　共同キュレーター『Flux - City of Change』Starta Art Fair、Saatchi Gallery（ロンドン、イギリス）
共同キュレーター『INTERPLAY』Art Stage Singapore 2013（シンガポール）
2012 年 『Looking at the Overlooked』George Paton Gallery（メルボルン、オーストラリア）
2011 年 『From Wonder to Ruins』Fehily Contemporary（メルボルン、オーストラリア）

2) 来場者向け情報

□ **スケジュール**

- オープニング・セレモニー
  日時 : 2014 年 9 月 19 日（金）17:00-19:00
  会場 ： 釜山市立美術館 1 階
- プレス・プレビュー
  日時 : 2014 年 9 月 19（金） 10:00-16:00
  会場 ： 釜山市立美術館ホール
- 展覧会一般会期
  2014 年 9 月 20 日～11 月 22 日　10:00-20:00

□ **入場料（チケット料金）**

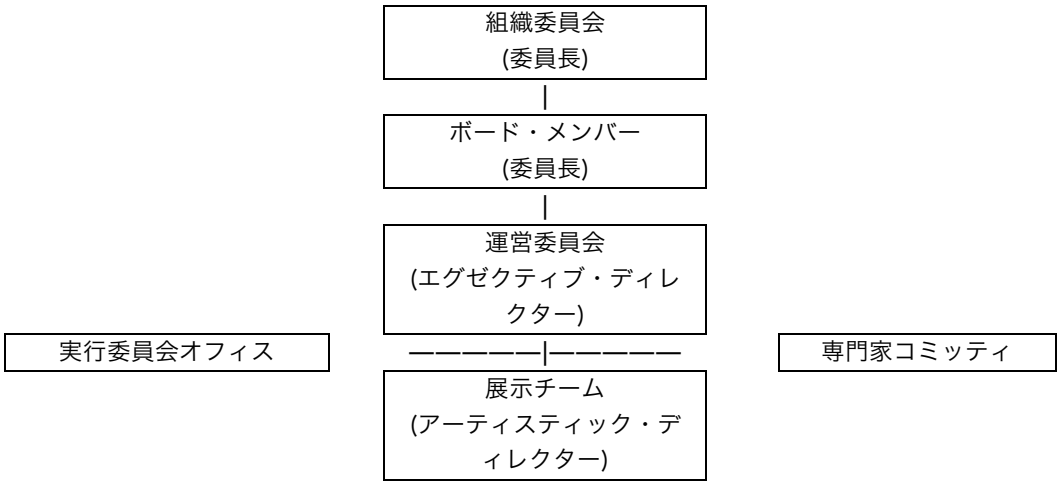
区分	当日		前売り		備考
	個人	団体	個人	団体	
一般	10,000	8,000	8,000	6,000	
学生	6,000	4,000	4,000	3,000	満 19～64 歳
家族	25,000		20,000		4 名（大人 2 名、高校生以下 2 名）

※単位は韓国ウォン
※1 韓国ウォン＝0.10032861 円（2014 年 6 月 4 日現在）
※チケットは、前売り券は各発売所で、当日券は有料展示場入口の発券所、指定前売り所で発売

3) 釜山ビエンナーレ組織委員会について

名称：釜山ビエンナーレ組織委員会
設立：1999年12月23日
委員長: 釜山広域市長
エグゼクティブ・ディレクター：吳光洙 [Oh Kwang Su] （Museum San館長)
副エグゼクティブ・ディレクター: 權達述 [Kwon Dal Sul] （新羅大学校名誉教授）

組織図



委員数： 84人（2014年6月）

釜山ビエンナーレ組織委員会のあゆみ

1981 年　釜山青年ビエンナーレ創立

1987 年　海の美術祭創立

1991 年　釜山野外彫刻展創立

1998 年　釜山国際アートフェスティバル('98PICAF)開催

1999年　(社)釜山国際アートフェスティバル組織委員会設立(12月23日)

2000年　第1回2000釜山国際アートフェスティバル開催

2001年　釜山ビエンナーレに名称変更(1.31定期総会)

2002年　第2回2002釜山ビエンナーレ開催(9月15日~11月22日)

2003年　専門芸術法人に指定(文化芸術振興法第10条)

2004年　第3回2004釜山ビエンナーレ開催(5月22日~10月31日)

2006年　第4回2006釜山ビエンナーレ開催(9月16日~11月25日)

2008年　第5回2008釜山ビエンナーレ開催(9月6日~11月15日)

2010年　第6回2010釜山ビエンナーレ開催(9月11日~11月20日)

2011年　2011海の美術祭開催(10月1日~10月21日)

2012年　第7回2012釜山ビエンナーレ開催(9月22日~11月24日)

2013年　2013海の美術祭開催(9月14日~10月7日)

2014年　第8回2014釜山ビエンナーレ開催

広報関連のお問い合わせ：

PR チーム・ディレクター　崔夆在 [Choi, Bong Jae (Mr.)]
Tel.: +82-51-503-6579 / email: bongjae.choi@busanbiennale.org

PRチーム・スタッフ　金智潤 [Kim, Ji Yoon (Ms.)]
Tel.: +82-51-501-9369 / email: jiyoon.kim@busanbiennale.org

Busan Biennale Organizing Committee
38, Asiad Main Stadium, 344 Worldcup st. Yeonje-Gu, 611-809, Korea

www.busanbiennale.org
blog.naver.com/bs_biennale
www.facebook.com/busanbiennale
twitter.com/BusanBiennale
youtube.com/bsbiennale